

## 2020年7月NHK中央放送番組審議会

7月のNHK中央放送番組審議会は、27日(月)、NHK放送センターにおいて、16人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、経営計画における「達成状況の評価・管理」(2020年度第1四半期・4～6月)について説明があった。続いて、これでわかった!世界のいま「全米に拡大するデモ 過激化のウラに何が?」を含む、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、8月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### (出席委員)

委員長 國土 典宏 (国立国際医療研究センター理事長)  
副委員長 石戸奈々子 (NPO法人CANVAS理事長)  
委員 秋田 正紀 (株式会社松屋代表取締役社長執行役員)  
石堂 真弘 (全国農業協同組合中央会常務理事)  
今井 忠 (NPO法人東京都自閉症協会理事長)  
大川 順子 (日本航空(株)特別理事)  
尾上 紫 (日本舞踊家、女優)  
木村たま代 (主婦連合会事務局長)  
栗原 友 (料理家)  
佐倉 統 (東京大学大学院情報学環教授/理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー)  
柴田 岳 (読売新聞大阪本社代表取締役社長)  
出口 治明 (ライフネット生命保険(株)創業者/立命館アジア太平洋大学学長)  
仲條 亮子 (グーグル合同会社執行役員/Youtube日本代表)  
花岡 伸和 (一般社団法人日本パラ陸上競技連盟副理事長)  
福井 烈 (公益財団法人日本テニス協会専務理事)  
安河内賢弘 (JAM会長)

### (主な発言)

<経営計画における「達成状況の評価・管理」

(2020年度第1四半期・4～6月)について>

○ 総合テレビについて、ニュースや後続の番組は好調だったようだが、スポーツ関連

番組は競技が中止になるなど、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた四半期だったと思う。全般的に今期の夜間帯はよく見られており、「NHKプラス」も順調に利用者が増えているが、利用者数の推移についてはどのように考えているか。

(NHK側)

「NHKプラス」の利用者数は増加しているが、増加率は鈍化している。アンケートなどの調査結果から、「NHKプラス」の存在を知らない視聴者がまだ数多くいると認識している。引き続き認知度向上に努めるとともに、災害時の利便性などをしっかり伝えることで利用者を増やしていきたい。

- 「NHKプラス」をしばしば利用している。災害時に便利だというのはその通りだが、見逃し番組配信などすべてのサービスを利用するためにはいくつかの手続きが必要だと認識している。急に災害が起きた場合などにも利用しやすいよう、もう少しシンプルな仕組みにできるとよいと思う。

(NHK側)

「NHKプラス」を利用するためのハードルが高いという声があることは承知しているが、なりすましを防ぐなど、セキュリティ対策などの観点から現在の仕組みにしている。また、災害などの緊急時にはすぐに視聴できるような運用にしているが、引き続きよりよいサービスとなるよう努力していきたい。

- 「NHKプラス」の認知度がまだ低いとのことだが、今後どのような方法で周知をしていくのか。

(NHK側)

周知の方法は大きく二通りあると考えている。一つは日常的にNHKを見ている視聴者に、放送を通じて丁寧に紹介していくこと。もう一つは、NHKをあまり見ていない視聴者に向け、SNSなどのツールを効果的に使って伝えていくことだ。引き続き「NHKプラス」の認知度向上に取り組んでいきたい。

- 今期は新型コロナウイルスの影響を大きく受けたということだが、視聴者の関心

が高いコンテンツが変化したことと、生活様式が変わったことが大きな要因だと思う。テレワークも増え、人々が在宅している時間帯にも変化があった。さまざまな要因が重なり、「NHKニュース7」や「ニュースウオッチ9」などがよく見られたのだと思う。新型コロナウイルスに対応した新しい生活様式が求められるなか、これまでにない番組編成も検討できるのではないか。

(NHK側)

新型コロナウイルスの影響を受けて、ニュース番組への関心が高まっているなかで、幅広い世代に受け入れてもらえるような伝え方を心掛けている。緊急事態宣言によって、不要不急の外出を自粛する要請が出されたこともあり、生まれ育った地域や隣接する県の情報に対する関心が高まっていることから、地域のニュースを全国向けに放送するなど、これまではその地域でしか見ることができなかった番組を全国の視聴者に届ける取り組みも行っている。

<これでわかった！世界のいま「全米に拡大するデモ 過激化のウラに何が？」

(総合 6月7日(日)放送) について>

- 議論に先立ち、論点を整理したい。この番組で、アメリカの抗議デモを扱った内容とSNSでの発信については、さまざまな意見がある。CGアニメーションについては、「映像表現が不適切で、黒人をステレオタイプに描いており、差別を助長しているのではないか」「問題のある表現を事前のチェックで見逃して放送したとすれば、チェック体制に問題があるのではないか」といった意見のほか、「分かりやすく伝えようとするあまり、結果として不適切な表現になってしまったのではないか」「SNSでアニメーションの部分だけを発信したために、番組で伝えた以上に差別的な表現だと受け取った人が多かったのではないか」「この番組をよく見ている視聴者は、見慣れたアニメーションであったために違和感を覚えなかったのではないか」といった意見がある。また、番組全体の内容については、「人種差別の本質が経済格差にあるような伝え方をしていたが、誤りだと思う」「アメリカ建国以来の奴隷制度の歴史について、もっと詳しく伝えるべきだった」「テーマの選定はすばらしいが、これまでもやや危うい表現をしていると感じることがあった」「多くの抗議デモが平和的なものであったのに、暴徒化が強調されすぎていた」「今後、デリケートな問題を取り扱わないということにならないよう、批判に対して真摯

(しんし)に向き合ってほしい」といった意見のほか、「それぞれのコーナーの内容が深く取材されており、難しい問題を分かりやすく伝えている」「子どもでも理解できるような伝え方をしており、とてもよい構成の番組だと思う」といった意見があることを踏まえて、議論したい。

- CGアニメーションだけが問題ではないと感じた。そもそも抗議デモを暴動の視点でとらえたことが問題だと思った。分かりやすく伝えようとするあまり、説明を誤ったのではないか。差別の問題を考えるときは、差別を受けている側の視点に立つことが重要だ。それを多くの人々に伝えることはとても難しいが、NHKは弱者の視点に立った報道を心掛けてほしい。
- CGアニメーションだけではなく、解説者のコメントや抗議デモの映像もやや極端だったと思う。差別の背景にある歴史についても、掘り下げが不十分だった。一方で、7月23日(木)のバリバラ「Black Lives Matter、そして日本は」では、この問題について、すべて分かったような構成ではなく、多様な視点で伝えておりすばらしかった。当然のことながらストーリーありきで考えるのではなく、事実を描くことが重要だと感じた。
- 今回は人種差別の問題がテーマとなったが、このほかにもさまざまな差別がある。全ての差別の問題は、本質的には似た構造になっていると思う。知らず知らずのうちに作り上げられてしまった常識によって、差別と差別でないことの境界が分かりにくくなっている。そして、誰もが加害者にも被害者にもなりうる構造が社会に出来上がっていると思う。NHKは公共メディアとして、構造的な問題や歴史的な背景など、さまざまな要因に常に感覚を研ぎ澄ませる努力をしてほしい。
- 「これでわかった！世界のいま」をよく見ている。難しい問題についても、かみ砕いて分かりやすく伝えることをめざしている番組だと感じていた。今一度、この番組の主な視聴者層について、改めて考えたほうがよいと思う。アニメーションを使うのはよいアイデアだが、これまでもデフォルメが過ぎると感じるがあった。視聴者からそのような指摘が寄せられたことはなかったのか。

(NHK側)

今世界でどのようなことが起きているのかについて、視聴者に分かりやすく伝えることを番組のコンセプトにしている。日曜日の午後6時台の番組であるため、家族で見ている視聴者も多い。アニメーションは5年間にわたって続けてきた演

出手法の一つだ。視聴者からは、「分かりやすくてよい」という意見がある一方で「ステレオタイプではないか」という指摘を頂いたこともある。今回、アニメーションの表現について深い議論がなされず、不適切な表現となってしまったことは痛恨の極みで、再発防止に努めたい。

- 子どもたちに親しみやすく伝えるという意味で、アニメーションはよい演出方法だと思う。改善すべきところは改善し、萎縮しすぎることなく、さらに新しい演出にも取り組んでほしい。
- アニメーションでステレオタイプに黒人を描いたことが批判されているが、アニメーションを細かく見たところ、さまざまな黒人の人たちの姿が描かれていた。問題の本質を的確に伝えるために、どのような表現を用いるべきかという問題はとても難しい。今回、どこに問題があったのかを明確にし、どの様なアニメーションであれば事実を適切に伝えることができたのかについて、徹底的に議論することが重要だと思う。SNSなどで放送の一部を発信する際には、メッセージの伝わり方が放送とは異なってくることと、受け手が日本国内だけではなく、世界になるということを意識する必要がある。制作チームのメンバーが多様性を持つことも重要だと思う。
- 日曜日の午後6時台の番組であるため、家族そろって見る人も多いと思う。バラエティー形式で国際的なニュースを分かりやすく伝えるという意味ではとてもよい番組だと思うので、今後も継続してほしい。SNSの発信については、今回の問題に限らず、いわゆる「炎上」と呼ばれることが世の中ではしばしば起こっている。SNSのリスクについてどう考えているのか聞きたい。

(NHK側)

今回の事例では、番組の一部分を単純に切り取ってSNSに掲載したことが、世界中に広がる結果につながってしまった。SNSに掲載する内容を精査することはもちろん、万一の際には迅速かつ適切な対応をとることが重要だと考えている。

(NHK側)

CGアニメーションをSNSに掲載したことについては、国内だけではなく海外でどのように受け止められるのかにつ

いてより慎重な議論が必要だったと考えている。

- 複雑な問題を分かりやすく伝えようとするあまり、単純な対比の構図で伝えてしまったことが問題の本質で、それは番組のコンセプトから生み出されてしまったようにも感じた。抗議デモや人種差別について正しい認識を持っているにもかかわらずチェック機能が働かなかったことを反省し、今後につなげてほしい。
- 分かりやすさを追求することは重要であるが、チェックが不十分なまま放送したことで失う信頼がいかに大きいかを痛感している。事実に基づいて正しい情報を伝えることが公共メディアの使命だと考えている。今回の教訓をしっかりと受け止め、今後このようなことがないよう徹底していく。

#### <放送番組一般について>

- 7月7日(火)の「首都圏ネットワーク」を見た。熊本県などで豪雨による被害が起きていたが、水害のハザードマップと実際の被害地域がほぼ一致していた。今回のように、想定されていた被害が現実起こった事例を日常的に伝えることが、人々の災害に備える意識を高めることにつながると思う。NHKは公共メディアとして、率先して人々の安全・安心に貢献してほしい。
- 6月20日(土)のNHKスペシャル「新型コロナと水害危機～あなたは命をどう守る～」を見た。水害への備えについて、重要なことを数多く伝えていた。これから台風シーズンになるので、さらに防災意識を高めるような番組も放送してほしい。日本は水害の多い国であるため、継続してこの問題を取り上げ、人々の命を守ることに貢献してほしい。

#### (NHK側)

NHKは公共メディアとして人々の安心・安全を守ることが大きな役割だ。新型コロナウイルスの感染が拡大するなか、どのように水害に備えるのかは重要なテーマだと考えている。災害が発生していないときに、警鐘を鳴らすような番組を多くの人に見てもらうことは重要であり、継続して取り組んでいきたい。

- 6月28日(日)のNHKスペシャル「戦国～激動の世界と日本～(1)秘められ

た征服計画 織田信長×宣教師」と7月5日(日)の「戦国～激動の世界と日本～  
(2) ジャパン・シルバーを獲得せよ 徳川家康×オランダ」を見た。歴史を新しい切り口でとらえており、詳しい人も満足できる興味深い番組だった。

- 7月4日(土)のNHKスペシャル「タモリ×山中伸弥“人体VSウイルス”～驚異の免疫ネットワーク～」(総合 後7:45～8:58)を見た。人体の免疫細胞と新型コロナウイルスのミクロの攻防を、最新の顕微鏡を通した映像や高精細なCGで伝えており、技術力の高さに驚かされた。最新の研究についてももしっかり取材されており、興味深かった。
- 7月4日(土)のNHKスペシャル「タモリ×山中伸弥“人体VSウイルス”～驚異の免疫ネットワーク～」を見た。新型コロナウイルスについてさまざまな情報があふれているなか、信頼できるNHKらしい番組だった。無症状や突然の重症化などのウイルスの特徴や免疫の仕組みがしっかり取材されていた。質の高いCGや特殊顕微鏡の映像を用いて分かりやすく伝えていたと思う。山中教授による解説も的確で、難解なことを平易なことばで分かりやすく説明していた。人類とウイルスの歴史を、科学的な視点から解説していたのも新鮮だった。視聴者の危機感を高めるとともに最新の研究成果に希望を持つことができる良質な番組だった。
- 7月4日(土)のNHKスペシャル「タモリ×山中伸弥“人体VSウイルス”～驚異の免疫ネットワーク～」を見た。人体の免疫をキーワードに番組が展開されており、興味深かった。新型コロナウイルスについては、医療現場についての情報は世の中にあふれているが、基礎科学的な情報はあまりないと感じていた。そのような中で、最新の研究について紹介し、その成果がどのように臨床に生かされるかという点にまで言及しており、新たな知見を与えてくれた。ウイルスと免疫の闘いを精緻なCGで映像化しており、映像技術の高さにも感心した。山中教授の専門は基礎研究で、感染症が専門ではないため、感染症や臨床に近い分野の専門家がゲストに加わるとさらに番組に深みが出たと思う。
- 7月4日(土)のNHKスペシャル「タモリ×山中伸弥“人体VSウイルス”～驚異の免疫ネットワーク～」を見た。CGがとてもすばらしく、映像技術の高さに感心した。とてもよい番組だったと思う。
- 7月18日(土)のNHKスペシャル「シリーズ TOKYOアスリート 今だからこそ 不屈のメッセージSP」(総合 後9:00～10:05)を見た。日本のトップアスリートが、新型コロナウイルスの影響で活動に制約がある中でも前向きに競技に

取り組む姿を伝えており勇気をもらった。一方で、アスリートは屈強かつ前向きであるべきだという考え方が、選手たち自身も含めて存在していると思う。しかし、アスリートも一人の人間であり、弱音を吐露できる環境が必要だと考えている。アスリートの取材においては、自らの弱い部分や不安などを素直に話せるような配慮を忘れないでほしい。

- 7月19日(日)のNHKスペシャル「新型コロナウイルス“生と死”の記録～医療最前線・密着3か月～」を見た。新型コロナウイルスと闘う集中治療の最前線を3か月にわたって密着取材していた。新型コロナウイルスの治療法が確立されていない中、医師たちが苦闘している様子が客観的に描かれており、取材当時の状況がよく分かった。看護師が命の尊厳についての葛藤を語っていたことに心を打たれた。放送時には感染状況が落ち着いていることを想定して制作した番組だと感じたが、むしろ現在は感染がさらに広がっており、やりきれない気持ちになった。一方で、感染が拡大している中で放送する番組としては、やや緊迫感に欠けていたと感じた。

(NHK側)

当初は感染状況が落ち着き、次の感染拡大局面に向けて教訓となるような番組にすることを目指していた。ただ、放送時には感染者が大幅に増加していたため、その時の状況を踏まえた構成とした。

- 6月14日(日)のこれでわかった！世界のいま「“バッタ”大量発生！世界各地で深刻な影響」を見た。サバクトビバッタの大量発生による農作物への被害について伝えていたが、日本への影響について言及されなかったのが残念だった。バッタが大量発生している地域で直接的な被害が大きいことだけではなく、間接的に世界にどのような影響があるのかについて、食料安全保障の観点から掘り下げてほしかった。
- 6月27日(土)のSONGS「DREAMS COME TRUE 中村正人スペシャル対談」を見た。中村さんと大泉洋さんとの対談がすばらしく、過去に放送した際の映像も効果的に使われていた。中村さんは、新型コロナウイルスの影響でこれまでのような活動ができない中、新しい表現を模索しており、興味深い取り組みだと感じた。音楽のコンテンツ価値などについても言及されており、すばらしい対談だった。
- 6月28日(日)の「サンデースポーツ2020」を見た。スポーツをしている市



民がSNSなどで意見を発信することについて、為末大さんがコメントをしていた。とてもよい視点で参考になった。重要で学びの多いテーマなので、別の機会にまた取り上げてほしい。

- 7月2日(木)のクローズアップ現代+「会えない大切な人へ 栗原はるみ・夫の手紙 夫婦で見つけた絆」を見た。新型コロナウイルスの感染拡大の状況下で、夫婦がともに過ごす時間が増えることに伴って離婚率が上がっているといった話も聞くが、夫婦や家族の形について改めて考えることができた。パートナーを大切に思う気持ちを感じることができ、心に響く番組だった。
- 7月6日(月)の「NHKニュース7」(総合 後7:00~8:45)を見た。東京都知事選挙投開票日の翌日だったが、結果が事前調査通りだったためか、東京都知事選挙についてはあまり触れられず、むしろ北区の東京都議会議員補欠選挙に時間をかけていた。確かに注目度が高い選挙ではあったが、NHKが公共メディアであることや、全国的な重要性を考えると、東京都知事選挙の扱いが少なすぎると感じた。ニュースや報道に際しては全体的なバランスにも気を配ってほしい。
- 7月12日(日)のニュース シブ5時 SP「新型コロナ日記」(総合 後5:16~6:00)を見た。新型コロナウイルスで変わってしまった日常について、視聴者が自ら撮影した動画で振り返るといった内容だった。数か月にわたる外出自粛期間中の感情の変化がよく伝わってきた。厳しい状況でも他人への思いやりを持つことなど、この間の精神的な成長も感じ取ることができた。リアリティーのある番組で、とてもよかった。外出自粛期間中に人々がどう過ごしていたのかを知ることができる貴重な番組だった。
- 7月19日(日)の日本博 特別公演「日本の音と声と舞」(総合 後1:50~2:58)を見た。演目表記について、正しくは「日本舞踊」なのだが、「舞踊」と省略されていたのが残念だった。伝統文化や芸術は、新型コロナウイルスの感染拡大が収束した後に、日本と世界をつなぐ架け橋になるものだと思うので、今後も積極的に取り上げてほしい。
- 7月22日(水)のあさいち「どうする？ コロナ禍の“見えない虐待”」を見た。長期間にわたる外出自粛生活など、子どもを持つ親は心身ともに疲れが限界に達していると思う。親たちのストレスに焦点を当て、子どもの行動にイライラしてしまう主婦の事例などを交えながら分かりやすく伝えており、学びのあるよい番組だった。スタジオトークでは親に向けた思いやりのあるコメントもあり、全体を通して

温かい雰囲気を感じられてとてもよかった。この番組は平日の午前中に放送しているためか、主婦目線の内容だったと思う。働きながら子育てをする親に向けた番組も期待したい。男性の育児参加などが進み、よりよい社会になっていくためにNHKの番組が果たすべき役割は大きいと思う。男女共同参画社会実現の機運を高めるような番組を引き続き放送して欲しい。

- 7月26日(日)の日曜討論「新型コロナウイルス 今すべきことは何か」を見た。国会議員の出演者が与党側の加藤勝信厚生労働大臣だけであり、野党側の国会議員が出演していなかったのは残念だった。また子どもの貧困についての専門家であるNPO法人の栗林知絵子理事長が出演しているのに、厚生労働大臣だけが出演し、文部科学省などの関係者がいなかったことは理解に苦しんだ。内容も新鮮味がなく、討論番組としてはもの足りなかった。

(NHK側)

日曜討論については、よりよい内容になるよう、出演者や演出などについて引き続き議論を重ねていきたい。

- 6月30日(火)の先人たちの底力 知恵泉(ちえいず)「千利休～“一期一会”今このひと時を楽しむ～」と 7月7日(火)の「千利休～極めることの光と影～」を見た。千利休の人間的魅力や卓越した美意識はもちろん、現代にも通じる才能を持っていたことがよく分かった。千利休の思想は、茶室の造り方や無駄のない作法、そして立ち居振る舞いに表れている。安心や平等に通じる千利休の強い信念が、今日まで文化として脈々と受け継がれていることがよく分かった。千利休が特別な存在であることを改めて感じた。ゲストのコメントも興味深いものだった。
- 7月7日(火)のサイエンサー「料理のハテナに答えます！(2)おうちで作ろう 極上ローストビーフ」を見た。10代の出演者が焼かないローストビーフを作っていたが、本格的な仕上がりで、とても驚かされた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、家で料理をする機会が増えている中、とても役に立つ番組だったと思う。紹介されたレシピで実際にローストビーフを作ってみたが、とてもおいしくできた。満足度が高い番組だった。
- 7月12日(日)のサイエンスZERO「“withコロナ時代”にいまこそ知りたいウイルスの正体」を見た。感染の仕組みが分かりやすく伝えられており、ウイルスへの理解が深まった。CGもすばらしかった。

- 7月14日(火)の先人たちの底力 知恵泉(ちえいず)「江戸の危機管理Ⅱ(前編)」を見た。徳川吉宗が当時の感染症に対してどのような対策を行ったのかについて伝えていた。吉宗が疫病対策のために専門チームを立ち上げ、データに基づいて政策を立案していたことは興味深く、歴史に学ぶ重要性を改めて感じた。「吉宗は儒教を修めていたこともあり、民を大事にするという考え方を持っていた」という趣旨の専門家のコメントが印象的で、理念の大切さを感じた。
- 7月16日(木)の「学びの遅れを取り戻せ!～先生たちのオンラインワークショップ～」(Eテレ 後10:00～10:50)を見た。オンライン授業に取り組む学校の先生たちに焦点を当てており、とてもよい番組だった。オンライン授業を設計するうえでヒントになる情報が豊富で、対処療法的にデジタル技術を活用した教育を行うのではなく、新型コロナウイルスの感染収束後も見据えた新しい教育のあり方を示唆していた点もすばらしかった。子どもたちの学習に役立つ番組だけではなく、先生たちの役に立つ今回のような番組を引き続き期待している。
- Eテレで毎週水曜日に放送している「no art, no life」を見ている。障害のあるアーティストが日々の生活の中ですばらしい作品を生み出す様子がしっかりと映像化されている。アーティストの世界観に引き込まれる、良質な番組だと思う。

(NHK側)

「no art, no life」は、「ETV特集」でこれまで取り上げてきたアーティストをシリーズ化した番組だ。専門的な教育や訓練を受けていない人による芸術はフランス語では「アール・ブリュット」と呼ばれており、世界的に注目されている。NHKでは障害のある方々への理解を促す意味も込めて、数多く取り上げている。

- 6月28日(日)の奇跡のレッスン「ジュニアテニス女子 伊達公子」(BS1 後7:00～7:50、8:00～8:49)を見た。元女子テニス世界ランク4位の伊達公子さんが女子のジュニア選手にレッスンをしていたが、短期間の指導にもかかわらず、子どもたちの成長がしっかり伝わってきた。伸び悩んでいる選手たちに対して、技術的な指導だけではなく精神面や時間の管理、さらに食事や睡眠に至るまでアドバイスをしていた。指導を受けた選手たちが目に見えて変わっていく様子に、頼もしさを感じた。圧倒的な才能を持つ選手に対しての専門的な指導ではなく、多くの人を楽しめる内容だったと思う。新型コロナウイルスの感染拡大による影響で選手たちは

まだ通常の練習をすることが難しいと思うが、前向きな気持ちにさせてくれる番組だった。伊達さんがレッスンをしている姿は貴重で、興味深い番組だった。

- 7月18日(土)のBS1スペシャル「ウイルスVS人類4 新型コロナ 免疫の謎に迫る」を見た。免疫機能についての理解が深まる、有益な番組だった。新型コロナウイルスについて役に立つ知識を得られる番組を2本見たが、どちらもBSで放送していた。総合テレビで伝えている情報はタイムリーではあるが、今回の番組のような本質的かつ継続的に役に立つ情報を伝える番組が少ないと感じている。新型コロナウイルスについて自ら考え行動することが求められる時期に来ているので、長期的に役立つ情報を伝える番組を総合テレビでも放送してほしい。
- 7月24日(金)のBS1スペシャル「“コロナ倒産”を防げ～下町信用金庫の二か月～」(BS1 後10:00～10:49)を見た。新型コロナウイルス感染拡大による影響で苦境に立たされている中小企業の倒産を防ぐために奔走する信用金庫の営業担当者の姿に感動した。一時的な融資は対症療法にすぎず、さらなる危機はこれから訪れるとも言われている。今後もこのようなテーマの番組を継続的に放送してほしい。
- 6月19日(金)の魔改造の夜「トースター高跳び」と6月26日(金)「ワンちゃん25m走」(BSプレミアム 後10:00～10:59)を見た。日常的に使用する家電や子ども用のおもちゃを、ものづくりのトップエンジニアが本気で改造をするという、よい意味で力が抜けた番組だった。日本最高峰の技術者たちが、おもわず笑ってしまうようなことに取り組んでいたのだが、エンジニアの情熱やレベルの高さには感動を覚えた。「全国高等専門学校ロボットコンテスト」のようにコンテスト化するなど、番組のレギュラー化を期待したい。
- 7月23日(木)のダークサイドミステリー「感染症パニック！見えない恐怖・なぜ人類は間違えるのか？」を見た。タイトルに興味をそそられ、つい見てしまう番組だ。今回はさまざまな病気にまつわる秘話を紹介していたが、掘り下げが浅く、もの足りない内容だった。番組のコンセプトを考えたとしても、数多くの事例を浅く紹介するよりは、一つの事例を深く追及するなどの工夫が必要だと感じた。今後期待している。

(NHK側)

頂いた意見は番組担当者とも共有し、今後の番組制作に生かしていきたい。

- NHKは新型コロナウイルスについて、特集やドキュメンタリーなどで多角的に伝えていると思う。一方で、定時のニュースでは、感染者が日に日に増える中、その日の感染者数だけを伝えたあとに都道府県知事などが注意を喚起する様子が伝えられ、そこでニュースが終わってしまうことがある。現在のように、新型コロナウイルスと共存して暮らしていかなければならない時期においては、視聴者自らが判断できるような最新の情報を、ニュースでも提供することを心掛けてほしい。繁華街などで集中的にPCR検査を実施している現状と、数か月前の検査状況は全く異なっており、感染者数だけを単純に比較することはできないと思う。放送時間にも制限がある中で苦労はあると思うが、死者数や回復者数の推移、重症患者や無症状患者の割合、受け入れ可能な病床数や利用率などを丁寧に伝えてほしい。

(NHK側)

指摘いただいた点については、現場でも常に議論をしている。感染者数そのものが重要であるケースもあれば、病床の逼迫状況など、感染者数に付随した情報が重要になるケースもある。さまざまなデータをどのように伝えるのがよいかを常に考慮しながら、正確な情報を視聴者に届けられるよう努めていきたい。

NHK編成局  
番組審議会事務局